

山県市議辞職 新たに3氏

選挙公営費詐欺で

岐阜県山県市の選挙公営ポスター製作費水増し請求事件で、詐欺の疑いで送検された村橋安治(五八)、武藤孝成(五八)、村瀬伊織(五八)の三市議が八日、村瀬伊織議長あてに辞職願を提出、受理された。これで送検された元市議ら七氏のうち、八月に辞職した二氏を含め五人が辞職した。

村橋氏らは、二〇〇四年四月の市議選で、公費負担の対象外のはがき印刷費をポスター費に含めるなどして過剰に市に支出させた疑いで、今年七月に送検された。市の調査は村橋氏は約十六万五

千円、武藤氏は約十四万五千円、村瀬氏は約十七万円をそれぞれ水増し請求したと認定した。

三氏は連名で「選挙公営制度の内容把握をしないかったため、市民の皆さまに大変ご迷惑をおかけした」とのおわびを發表した。

七月に議長職を辞めた村橋氏は「議長と同時に

議員も辞めるつもりだった。辞職で補選や自主解散となれば市民や市政に迷惑がかかるためいろいろ慎重になった」と話した。同じく送検された元市議で同市選出の横山善道(五八)と宮田軍作(五八)は、進退を明らかにしていない。

同市議会は定数二二で、四人以上の欠員で補

ボスター 山県市議 突然の辞職 水増し

山県市の選挙公営ポスター製作費水増し事件で、詐欺の疑いで送検された三市議が新たに辞職してから一夜明けた九日、市議や関係者らは「いつかはじめをつけると思っていた」と冷静に受け止めた。

新たに辞職したのは前議長の村橋安治氏(五八)と武藤孝成氏(五八)、村瀬伊織氏(五八)。六月に元市議の横山善道(五八)と謝罪会見したが、はじめは議会内の役職から退いたにとどまっていた。

定数二二の同市議会で現職六人が送検された。公選法の規定では四人以上の欠員で補選の必要があ

「補選なし」議会冷静

り、送検された七月の時点では、来年四月末の任期満了まで一年を切っていたため「補選よりは自主解散し、すでに決まっている定数一六で出直すべきだ」との声もあった。残り六カ月を切る十一月に入り、補選ラインは欠員八人以上に緩和。ある市議は「補選、自主解散と騒がれる中、これ以上の混乱を避けたのでは」と話す。村橋氏も「慎重になっていた」と時期を選んだことを暗に認めた。

（横山大輔）

山県市議3人 新たに辞職

ボスター 水増し

二〇〇四(平成十六)年四月の山県市議選で、公費負担されるボスター代を水増し請求したとして、現職市議らが書類送検された詐欺容疑事件で、村橋安治(五八)、村瀬伊織(五八)、武藤孝成(五八)の三市議が八日、議長あてに辞職願を提出、受理された。この事件で書類送検された市議六人のうち、辞職したのは計五人

となった。同市議会の定数は現在二二。同市議の任期満了(来年四月三十日)まで六カ月を切っており、公選法によると、今日一日以降は欠員が三分の一以上になると、補選が行われるが、現時点では欠員五のため、補選は実施されない。三人は八日、連名で「三人は八日、連名で議会議員として行政の視に努めてきたが、選挙公営制度の内容把握をておらず、市民にご迷惑をおかけしたことに大申し訳なく思っています」とのコメントを發表した。村瀬伊織議長は人らの判断でありその持ちは受け止めた。残された議員で力を合わせ議会の信頼回復に努めたい」と語った。

さらに3市議辞職

山県市議選ボスター水増し請求

04年の岐阜県山県市議選で公費負担されるボスター製作費を水増し請求したとして、詐欺容疑で書類送検された村橋安治(五八)、武藤孝成(五八)、村瀬伊織(五八)の3人が8日、村瀬伊織

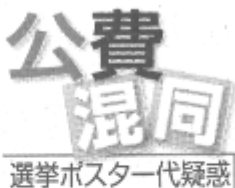
・同市議長に辞職願を提出、受理された。書類送検された元同市議の泉議と市議6人の計7人のうち、市議を辞職したのは5人になった。

対象外の選挙用はがき代金などを含めて不正請求した。水増し額は村橋市議16万5756円、武藤市議14万5862円、村瀬市議17万0610円。3人は同日、市議会事務局を通じて「選挙公営制度の内容把握をしていなかったため、市民の皆さまに大変ご迷惑をおかけした」とのコメントを出した。【宮田正和】

(第3種郵便物認可)

補選回避へ調整か

山県3市議辞職 同僚・有権者は批判



選挙ポスター代疑惑

04年の山県市議選をめぐるポスター代水増し請求事件で、8月に市議を

辞職した2人に続き、前議長村橋安治(58)、武藤孝成(58)、村瀬隆彦(54)の3市議が8日に辞職したことに對し、有権者や同僚議員は「こんな

に居座るとは」「本当に反省しているのか」と、怒りを新たにした。市議会事務局によると、同日午後5時、3市議が突然、それぞれ姿を見せた。村瀬伊織議長とは

3人は直接、村瀬議長に辞職届を提出。その場で受理された。連名の短いコメントを事務局に託しただけで、記者会見などは開かなかった。

県警が詐欺容疑で捜査していることが報道されたから約5カ月。市内の建築土木業の男性(58)は「水増し請求するのは、私らの税金を盗んでも同じ。議員を続け給料を受け取っていたとは許せない」と取まらぬ。

ボスター代問題を追及してきた寺町知正市議は「警察や市民に容疑を認められた時点で、有権者への責務として潔く辞職すべきなのに、ここまで居座るとは信じられない」と批判した。

10月末までは欠員が4人以上で補選になるが、来年4月の改選半年前の11月1日以降なら、欠員が8人以上にならないけれ

ば補選の必要がなくなることも、辞職の時期に影響したとみられる。

補選には1千万円程度かかると思われる。与党系最大会派の市議も「厳しい財政の中で補選を避けるための唯一の選択だった。議会としての自浄作

用を示した」と漏らし、水面下で調整が進んでいたことをほのめかした。

水増しを認めた後も現職にとどまっているのは宮田軍作市議(65)、元市議の横山善道(54)の2人になった。宮田市議の後援会幹部は「聴取が続いている段階で、司法の判断が下されるまでは議員を続けることで責任を果たしたい」という立場は変わらない」と、現段階での辞意を否定した。

山県「水増し」

3市議が辞職

04年の岐阜県山県市議選のポスター水増し請求事件で、詐欺の疑いで県警に書類送検された同市の現職市議7人のうち、前議長村橋安治(58)、武藤孝成(58)、村瀬隆彦(54)の3市議が8日、村瀬伊織・市議長に辞職願を出し、受理された。こ

の事件で辞職した市議は計5人となった。

同市議会は、欠員が4以上になると補欠選挙を行うことになっている。しかし、来年4月の任期満了の6カ月前にあたる今月1日以降は、8以上の欠員がなければ補選を実施しなくてもいいため、補選を避ける狙いでこの時期に辞職したと見られている。